拓水

TAKUSUI
No. 711

1
January. 2016

発行（一財）兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌

申歳（高砂市）

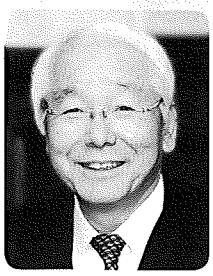
平成28年 年頭挨拶
JF兵庫漁連 通常総会 開催

《今月の海上安全標語》 ～ 明けましておめでとうございます！ ～

本年もよろしくお願いいたします。

今年は申年ですね。今年こそ海難事故“0（ゼロ）”を目指していきましょう！

海の難　今年こそ“去（サル）る”兵庫の海で では、今年も安全操業で!



～兵庫創生に挑む～

兵庫県知事　井戸敏三

新年あけましておめでとうございます。

国内では急速な人口減少・少子高齢化、世界では地域紛争が激化する一方で、国境を超えた経済の一体化が進展しています。内外とも変化の激しい今、兵庫においても、新たな発展の枠組みが求められています。

昨秋、本県は、五年間の地域創生戦略を策定しました。今後五十年で百万人以上の人口減少が見込まれます。少子化と高齢化も年々進行します。その中でも兵庫が活力を保ち、将来への希望を持てる地域を目指さねばなりません。それだけに、地域の多様な資源を最大限に活用して、ふるさと兵庫を愛する人々とともに、「安全安心で元気なふるさと兵庫」を創らねばなりません。

第一は、安全安心の確保。安全こそが県民生活と社会経済活動の基です。ハード・ソフト両面から防災・減災対策を進め、危機に強い地域を創ります。また、医療、福祉の更なる充実により、安心して暮らし続けられる体制を整えます。

第二は、多彩な人材が活躍できる社会づくり。女性、若者、高齢者、障害者の一層の社会参加を促します。そのためにも、子育て環境の整備や、個性を伸ばす教育に努め、県民一人ひとりの自己実現を目指します。

第三は、活力あふれる地域づくり。科学技術基盤を活かした新産業の創出、大都市近郊を活かす農林水産業の確立など、産業の競争力強化に取り組みます。また、高速道路網の整備、広域観光圏の形成などにより、内外との交流の拡大につなげます。

未来は、私たちの手で変えられる。

そのため、戦略では、自然増や社会増対策を行うとともに、人口が減る中でも実質的な経済成長を実現するという目標を掲げました。地域、地域の持つ多様な資源を活かしつつ、兵庫としてのまとまりを発揮する「多様性と連携」を基本に、皆さんと共に挑みます。「兵庫創生」に向けて、さあスタートを切りましょう。

各地域　資源を活かし連携し
めざすは兵庫の新しい展開

CONTENTS

No.711　January. 2016

2　新年のご挨拶

7　第40回 ＪＦ兵庫漁連通常総会
甲南女子大学との消費流通検討会

8　第1回 乾のり入札会を開催

9　ＪＡ農産物直売所にＪＦ明石浦が出店

10　大輪田塾だより
海難事故をなくそう

11　兵庫JCC通信

12　旬に想う
灯浮標は目立って なんぼ

表紙の言葉

「申歳」（高砂市）

今年は申歳です。

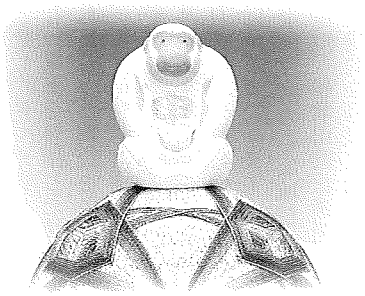
写真は、高砂市の曽根天満宮にある大絵馬で、今にも動き出しそうな猿が印象的でした。

干支の十二支で９番目にあたる「申」は、草木が充分に伸びきった状態で、身が成熟して香りと味がそなわり、固く殻におおわれていく時期を表していると言われています。

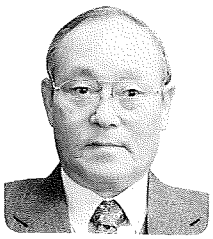
兵庫では、昨年、瀬戸内海を豊かな海にする取組みが実をつけました。

その実が熟れて、確かなものになっていく一年になることを祈念します。

新年のご挨拶



年頭のご挨拶



兵庫県漁業協同組合連合会
代表理事会長
山田　隆義

新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、県内ＪＦ組合員の皆様ならびにＪＦグループの皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

我々漁業を取り巻く環境は、水産資源の減少や魚価の低迷、漁業者の減少、高齢化等、依然として厳しい状況にあります。

本県の漁業に目を向けますと、内海地区の主幹漁業であるのり養殖は、豊漁であった前年を上回る共販金額で順調なスタートを切りました。西播地区のカキ養殖は種苗確保が困難であったものの、生産はまずまず順調に推移しており、但馬地区の基幹漁業であるカニ漁については、数量は前年を若干下回っておりますが、金額が前年を上回る状態での操業となっております。

また、燃油価格も昨年1月から大きな高騰も無く、1年をとおして順調に値下がりしていることから、少しでも漁業者の皆様の経営改善に繋がっていけばと感じております。

このような中、昨年10月にＴＰＰ問題が大筋合意され、漁業を取り巻く情勢が大きく変化いたしました。関税については、水産物の多くが完全撤廃される中、本県の主幹漁業であるノリ等の海藻類は15％削減にとどまりました。

しかし、牛肉等の関税引き下げにより、水産物の消費がさらに減少することが懸念される中、水産食料を安定供給していくため、ＪＦグループでは、政府等に対して緊急に実施すべき取組策への支援を求め、12月には補正予算が閣議決定されました。

食料供給産業である水産業をより競争力のある産業にしていくため、地産地消の推進を通して地魚の鮮魚販売拡大に繋がるよう全力を尽して取り組んでまいります。

また、本県漁業にとって重要施策の一つであった「豊かな漁場再生」にかかる法整備は、昨年9月25日に『瀬戸内海環境保全特別措置法の改正』が決議されました。今後は、豊穣の海を取り戻し、漁業者が安心して漁業経営を行うため、10年、20年後の将来を見据えた対策をたて、国・地方と漁業者が一体となって取り組んでいく必要があります。

さらに、水産日本の復活に向けたＪＦグループの新運動方針（２０１５―２０１９）として、兵庫県でも、浜自らが将来の自分たちのあるべき姿、取組むべき課題を考える浜の活力再生プランの展開等、各系統事業の重点取組事項を盛込んだ「兵庫県版アクションプラン」を策定し実践に取り組んでおり、本会としても、本県の漁業が将来に亘って安定的かつ継続的に維持・発展していけるよう、全事業部門において積極的な改革を実行して参ります。

最後になりますが、本県の漁業が活気を取り戻して、希望の持てるスタートの年となりますとともに、皆様のご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

兵庫県信用漁業協同組合連合会
代表理事会長
山田 峰人

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、会員並びに組合員の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃より本会業務の運営に格別のご高配をいただいておりますことにあらためて厚くお礼申し上げます。

昨年を顧みますと、我が国経済は安倍内閣の経済財政政策の推進により、雇用・所得環境が改善し、原油価格の低下等により交易条件が改善する中で、緩やかな回復基調となる一方、中国を始めとする新興国経済の景気減速の影響は世界中から注目を集めました。

また、10月にはTPP交渉が大筋合意に至り、今後水産業界全体への多大なる影響が懸念されますが、強い水産業づくりに向け予算措置を求め、承認されたところであります。そして瀬戸内では、9月に念願であった「瀬戸内海環境保全特別措置法（瀬戸内法）」が改正され、今後、豊かで美しい里海を目指した種々の施策が実行されることが期待されます。

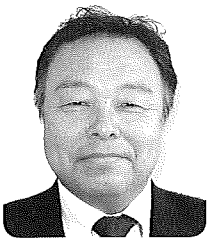
本会は、新中期経営計画の初年度にあたり、「浜の暮らしを守る信頼の金融」をさらに具現化すべく、「原点への回帰」と「経営力強化」を経営の基本方針に事業展開を行ってまいります。

また、全国段階の「広域信漁連構想」と呼応しつつ、和歌山県信漁連との合併について実践的な協議組織として設置した「統合信漁連推進委員会」において策定され、理事会において承認いただきました「統合基本計画」について、本会の最重要課題として会員の皆様に説明を行っていくこととしております。

貯金業務においては、「浜の窓口強化」のための具体的手法として、一定の期間をかけ、利用者の皆様方に満足のいただける新事業推進体制の構築に取り組むこととしており、融資業務では、本来本会が持ち合わせていた「指導金融」としての側面を発揮すべく漁協・漁業者・加工業者へのアプローチ強化に努めてまいります。

最後になりますが、今後とも役職員一同、水産系統組織の一員としての自覚を持ち、系統金融機関のとしての機能発揮に取り組んでいく所存でございます。

本年も、皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申しあげまして新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

兵庫県漁業共済組合
組合長理事
川越 一男

新年明けましておめでとうございます。今年は十二支の第九番目の申年ですが、我々の人間世界には、世渡りの上手な人もいれば下手な人も沢山います。そこで、申年に因んで一言申し上げれば、この世には、あえて「見えるものも見ず、言いたいことも言わず、聞こえていながら聞こえないフリをする」ことも、場合によっては必要なときもあるようです。

昨年は世界的には何と言ってもIS（イスラム国）の問題が大きく取り沙汰された一年でした。非情極まりないテロ行為が各国で際限なく発生していることから、ついに米英仏ロがこれの殲滅作戦にうって出ようとしています。アフリカを中心としたエボラ出血熱も一時は世界を騒然とさせました。国内においては、依然として普天間基地の移設問題や尖閣諸島の領有権問題についての解決策が見出されていない中で、大きくクローズアップされたのが安保法案の審議入りとその成立でした。原発の再稼動問題や新たに加わってきたTPP問題等々数え上げればきりがないほど難題が山積しており、これらのより良い道筋を見定めるには、極めて精巧な羅針盤が必要とされているところであります。

さて、昨年の本県水産業をふり返ってみますと、ノリ養殖については定期的な降雨による栄養塩補給と終始堅調な相場、それに生産者の皆さんの旺盛な生産努力とが相俟って、何とか3年前の平成23年度漁期に匹敵する成績を収めることができましたが、やはり「大なり小なり色落ちは毎年必ずある」という心配事は依然払拭できない状況下にあります。イカナゴ・チリメンの船曳網漁業をみましても、地域的な格差こそあれ、全体的には昨年のみならずここ数年厳しい状況が続いています。また、唯一ここ数年非常に好調であった西播地域のカキ養殖が、成長不良や種ガキの問題等で大変深刻な状況に陥っているのも事実であります。このような中で但馬のズワイガニ漁については、全体的には過去最高の水揚金額になったとはいえ、中・小型船にとって何よりも辛いことは時化で沖に出られないことであります。勿論、カニかご漁船や沿岸つり漁船等も同様ではありますが、何かしらそういった環境の変化と申しますか、沖に出られない荒天の日が年を追って長期化しつつあるように思えてなりません。

環境という面でもう少し付け加えますと、今や日本列島は地震のみならず火山活動も非常に活発になっています。また、7月という時期に台風が同時に3つも発生するようなことや、恐らく竜巻であろうと思われる沖合イカ釣り船団の一瞬の複数沈没などは、これまでの私の長年の記憶において一度も無かったことであります。

このように、地球規模的に環境が大きく変化してきている中で、私どもの漁業共済もそういったことに敏感に対応していかねばなりません。その一例として、すでに始まっております27年度ノリ漁期から、ノリ特定養殖共済の補償範囲に従来の本張り期間のみならず育苗期間も対象になったことは、既に関係者にとりましてはご承知の通りであります。

そういったことで、災害対策としての「漁業共済」、そして経営安定対策としての「積立ぷらす」については、漁業者の皆さんにとって必ずや1つの大きな安心感に繋がっているものと考えておりますので、どうか今後とも、当該事業に対する倍旧のご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新しい年を迎えて

兵庫県農政環境部農林水産局
水産課長
小林 孝司

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、清々しく新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。新しい年が希望に満ちた一年となりますよう、心からご祈念申し上げます。

昨年は、国の内外で様々な動きがあった一年でした。国内においては、これまでの本県水産関係者の長年にわたる取組が身を結び、宿願であった瀬戸内海環境保全特別措置法改正法が成立し、人と自然が共生できる海、里海への再生に向けた枠組みが整いました。今後、関係機関と連携して湾灘ごとの実情に応じた県計画を策定し、瀬戸内海を豊かで美しい里海として再生するため、海域環境の保全や回復に向けて全力を挙げていきたいと考えています。

また、国際的な経済の動きとして、アジア・太平洋経済圏の構築を目的としたTPPが大筋合意されたことは、今後の農林水産業にとって大きな転換点になると考えられます。国においては、このTPPがアベノミクスの「成長戦略の切り札」として位置づけられ、その対策に予算措置が講じられているところですが、水産業にとっては、安価な畜産物の輸入増加等による水産物の価格下落や消費の減少等が強く懸念されており、競争力の強化や水産物の消費拡大など、中長期的な視点に基づいた取組が重要となってきます。

この様に農林水産業をめぐる社会情勢が大きく変化する中、県では「安全安心で元気な兵庫」の実現に向け、地域創生を県政の基本施策に位置づけ、兵庫県地域創生戦略を策定いたしました。また、県施策の総合的な指針を示す「ひょうご農林水産ビジョン2025」の策定作業を進めており、兵庫の強みを活かした積極的な「攻め」の農林水産業を目指し、各地域の特性に応じた施策を重点的に実施することとしています。漁業経営の多角化や基盤の強化、所得の向上を図り、本県ならではの魅力ある水産業を目指して様々な施策を積極的に展開してまいりますので、今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

新たな年の始まりとともに、本県水産業が益々発展し、未来に向かって力強く前進されますことと、新しい年も平穏で安全な操業が続き、豊かな海の幸に恵まれますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶

兵庫県立水産技術センター
所長
近藤 敬三

新年明けましておめでとうございます。皆様には気分新たに清々しい新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

昨年は、瀬戸内海ではノリ養殖が平年を上回るような豊作となり、大変喜ばしい結果となりました。しかし、瀬戸内海の貧栄養化に変わりはなく、今後も漁場の栄養塩濃度を見極めながら生産しなければなりません。さらに、この貧栄養化は、底びき網漁の不振に象徴されるように、漁船漁業における漁獲量減少の主因であると考えられています。

この貧栄養化や藻場・干潟の消失等の様々な課題を解決するために、漁業者が要望していた法律の整備に向けた活動が実を結び、『瀬戸内海環境保全特別措置法』が昨年10月に改正・施行されました。この改正は、瀬戸内海を真に『豊かな海』として再生させるためのものであり、漁業者の粘り強いご努力によって実現しました。

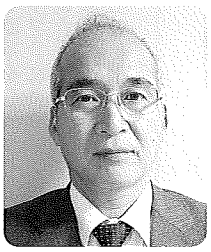
水産技術センターでは、この法律改正が求めている栄養塩と漁獲量の関係を解明する研究を始め、イカナゴ・シラスの漁況予測等の資源管理技術や、川砂を用いた漁場造成等の資源増大技術、ノリやカキ・アサリの優良品種開発等の試験研究を積極的に進めたいと考えており、今年はその出発の年であると気を引き締めております。

日本海では調査船「たじま」を活用した試験操業や、計量魚探で資源量を定量的に把握する新技術によって、ズワイガニやハタハタ、ホタルイカやソデイカの漁況を予測する等、漁況情報の迅速な発信に努めます。

さらに、漁期以外のカニ等の混獲を防止するための漁具改良等の資源管理技術の開発や、漁獲物の高鮮度流通技術の開発等に努めてまいります。

兵庫県水産業の発展のため、最新情報や新技術を提供できる水産技術センターを目指して努力して参りますので、引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

兵庫の海が豊かな恵みをもたらすとともに、皆さまにとって実り多い年となりますよう祈念申し上げて、新年のご挨拶といたします。



年頭のご挨拶

兵庫県農政環境部農林水産局
漁港課長
坪田 勝幸

あけましておめでとうございます。

皆様には、新しい年の門出をすがすがしい気持ちでお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、瀬戸内海環境保全特別措置法の改正がありました。皆様の熱意とご苦労により達成することができました。今後は実践のステージに入って行くわけですが、豊かな海の再生・創造に向けて皆様とともに取り組んで参りたいと思います。

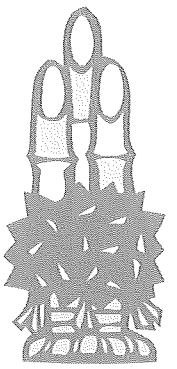
また、漁港漁場整備長期計画の改定時期がやってきました。国においては平成28年度中の策定に向けた検討が進められ、水産物の流通構造改革、海域の生産力向上、漁港・漁村の強靭化、地方創生を重点とした構成と聞き及んでいます。

今後は、改正瀬戸法やTPPなどへの対応も盛り込まれていくものと思われ、県としても地域の実情に応じた改定になるよう要望してまいります。

幸いにも、県下漁港漁場で大きな自然災害による被害が発生しませんでした。しかし、全国を見ますと、鬼怒川の堤防決壊による水害など、従来の想定と異なる気象現象が新たに生じており、今後も気を引き締めて災害に強い漁港・漁村づくりを進めてまいりたいと思います。

近い将来発生が懸念される南海トラフ地震に対しては、最大クラスの津波への備えとして、昨年6月に「津波防災インフラ整備計画」を策定し、水門や防波堤の整備、陸閘の自動化などの対策を早急に進めてまいります。日本海沿岸の津波対策についても対策に向けて調査・検討を進めてまいります。

漁港施設については、漁業活動が安全で効率的に行えるよう施設の機能を良好な状態に保つことも必要です。施設の老



朽化が進み更新の時期を迎えていますので、計画的に修繕や更新に努め施設の長寿命化や更新コストの縮減に積極的に取り組んでまいります。

豊かな海の再生への取り組みでは、漁港自体の魚を育てる機能に着目し4年間にわたって生物やその生息環境等について調査してきました。HEPと呼ばれるハビタット評価手法により、環境と生物、餌生物と捕食者の関係を数値化し、生物多様性の現状を明らかにすることとしており、今後の漁港整備に活用して行きたいと考えております。

浜の活力再生プランの目標である漁家の所得向上に向けた取組みでは、漁船漁業やノリ養殖漁業の経営安定化・効率化に向けた漁業構造改善施設の設備、全自動ノリ乾燥機の整備などを円滑に進めるため、国の補助事業を最大限獲得し、支援に努めてまいります。

県の農林水産関係では、現在、「ひょうご農林水産ビジョン2025」へ改定作業を進めており、兵庫らしさを最大限に発揮し、次代に向けた積極的な攻めの農林水産業を展開して参ります。

取り巻く環境の急速な変化に対しては、みなさまと一緒になって乗り越えて行きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、本年が皆様にとってさらなる飛躍の年となりますように祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶

全国漁業協同組合連合会
代表理事会長
岸　宏

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、全国の皆様に謹んで新年のご挨拶を申しあげます。

さて、振り返りますれば昨年は、「水産日本の復活」に向け、JFグループを挙げて「浜の活力再生プラン」の策定・実践に取り組んで参りました。昨年11月末現在で481地区のプランが承認されており、これほどまで全国で一致して行われた取り組みは他に類のないものと、多くの関係者から評価をいただいております。

「プライドフィッシュプロジェクト」についてもマスメディアに多く登場するとともに、有名流通、小売店でもフェアが開催されるなど、消費者にも一定程度の認知を得ることができました。また、本会が、JFグループ初の海外アンテナショップとしてシンガポールに開店した「JF KANDA WADATSUMI」においても、現地の方々を対象に毎月のようにセミナー、フェアを開催し、国産水産物の優れた品質をアピールすることで、国産水産物普及拡大の一翼を担うことができました。

一方で、昨年10月5日にTPP交渉は大筋合意に至り、漁業補助金の国の政策決定権は維持されたものの、関税については、ノリ、コンブ等の海藻類を除き全て撤廃という厳しい結果となりました。さらに、我々にとっては、畜産物関税が大幅に引き下げられることで、魚から肉類への消費のシフトによる水産物消費の減少や価格下落が懸念されるところであります。

現在、各浜では漁業者が血の滲むような改革をしております。この尊い努力がTPPにより水泡に帰すことにならないようJFグループでは、強力な支援策を求める活動を関係要路に行っています。その結果、11月25日に決定された政府大綱に、「担い手へのリース方式による漁船導入」、「産地の施設の再編整備」、「漁業経営セーフティーネット構築事業の運用改善」等の取り組みが盛り込まれ、補正予算等での実現に取り組んでいきます。

TPPをはじめ震災復興など厳しい状況は続きますが、「ピンチをチャンスに」を常に念頭に置き、意欲ある漁業者が将来に亘って希望を持って経営に取り組んでいけるよう今後も活動をしていく所存であります。

会員をはじめ、関係者の皆様におかれましてはこの難局を乗り越えていくために、これまで以上に英知と総力を結集していただき、浜プランの完遂に向け、引き続きのご理解・ご協力を頂きたくお願い申しあげます。

最後になりますが、漁業の豊かな将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆様の操業の安全とご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

3か年計画最終年度に向けて

全国共済水産業協同組合連合会
代表理事会長
鎌田　光夫

明けましておめでとうございます。年頭にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

はじめにJF役職員、関係者の皆様には、日頃からJF共済の普及推進活動に熱心にお取り組みいただき心よりお礼を申し上げます。

さて、JF共済を取り巻く情勢は、このところの主要魚種における漁獲量の減少と長期にわたる魚価安、原発事故による風評被害、また大筋で合意したTPPへの対応等、依然として深刻な課題が山積しています。

こうした厳しい環境ではありますが、私たちには海に生き、浜に生活する組合員・地域住民の「暮らしの保障」に万全を期すことを通じて、美しい海と漁業を守り、豊かに安心して暮らすことのできる魅力ある漁村・地域づくりに貢献する使命と役割があります。

このため、JF共済では平成26年度を初年度とするJF共済3か年計画に掲げた、①組合員等利用者ニーズに対応した保障提供、②東日本大震災被災JFの復興支援、③万全な共済実施体制の確立、④元気で活力のある漁村・地域づくりの支援、といった主要施策を着実に実行し、JF共済事業の健全性強化をはかることとしています。

また、基幹事業種目であるチョコーについては保有契約量の減少傾向に歯止めをかけることを目的として、共済事業量目標を設定しこれを実践することにより、継続的かつ安定的な事業基盤を確立し、JF共済事業の健全性強化を図っていくこととしています。

平成28年度は3か年計画の最終年度ですが、推進本部を中心にJFと一体となり、全戸訪問を基調とする保障点検活動とチョコーの純新規契約の加入促進運動をすすめ、同計画に掲げた目標の必達に向けて積極的に取り組んでまいる所存です。

いっぽう、JF共水連では平成24年度から3か年にわたる増資計画を実行し、非常に厳しい事業環境にもかかわらず、38億円を超える増資のお引受をいただき、さらには、各準備金の充実強化を行い、900%を超えるソルベンシー・マージン比率を確保することができました。

加えて、一昨年の7月からJF系統方針として、2年間限定で行っている漁業者年金の「一括払制度」の選択状況は、JFにおけるきめ細かな個別ご案内が奏功し対象者の約58%（27・10末）の方が選択されています。併せて皆様方のご理解とご尽力に、厚くお礼を申し上げます。

今後も一層の経営の健全性・信頼性の確保に努め、組合員・地域住民の皆様の負託に応えてまいりたいと存じますので、引き続きご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

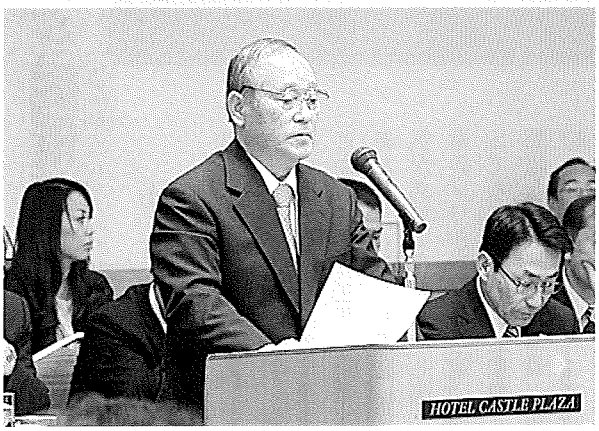
第40回 通常総会 開催される

JF兵庫漁連

12月8日（火）、明石市内のホテルにおいて、JF兵庫漁連の第40回通常総会が、県水産課小林 孝司課長、農林中央金庫大阪支店 戸髙 聖樹支店長をはじめ、県下JF組合長並びに関係団体から多数の出席者を迎え開催されました。

開会にあたり、山田会長が「TPP問題を含め、漁業を取り巻く環境が年々厳しくなっていくなか、浜の活力を取り戻し、強い漁協、新しい兵庫の漁業を作っていきたい。また、悲願であった瀬戸内法の改正を契機に、かつての豊かな海の再生に、県漁連・漁業者が一丸となって取り組んでいきたい」と挨拶をされ、続いて来賓として、兵庫県 井戸 敏三知事（小林課長代読）、戸髙支店長から祝辞がありました。

40期の事業実績は、ノリ養殖・カキ養殖が順調に推移したことから、購買事業・販売事業のほとんどで計画を上回り、事業総取扱高244億4千1百万円、事業利益1億8千2百万円（計画対比6千6百万円増）、経常利益1億4千6百万円（計画対比4千9百万円増）となりました。任期満了に伴う役員選任も行われ、現役員全員の再任が決まり、事業報告など全議案原案通り承認されました。また、子会社である㈱ひょうごぎょれん販売については、平成26年1月に販売力強化策として、全株式を取得した㈱東海屋に事業を移管したため、平成27年11月18日開催の定時総会において同日付けで解散が決議されたことの報告がありました。最後に田沼副会長が「20年先まで安心して漁が出来るよう、役職員一同、頑張っていく」と挨拶され閉会しました。



挨拶に立つ山田会長

甲南女子大学との消費流通検討会を開催

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会（大西 正起会長：JF伊保）は、近年、県内の大学生協へ「LOVE SEA丼」の食材を提供するとともに、各大学の学生を対象に消費流通検討会を開催するなど魚食普及活動を積極的に展開しています。

11月16日(月)、甲南女子大学(神戸市)で行った消費流通検討会では、同会部員や関係者ら12名が学生ら約20名を対象に魚料理教室を開催しました。同大学では後日、LOVE SEA丼としてハモが提供されることになっており、食堂の調理担当者も交流の一環で参加しました。

大西会長の「魚や海について、いろいろ知ってもらいたい」との挨拶から始まり、学生らはまず「アカシタのソテー風味パン粉がけ」と「カキとキノコのソテー」の調理に挑戦しました。自宅から通学する学生が多く、包丁を持つ機会があまり無いという皆さんでしたが、調理をすることが楽しかったようで、また挑戦したいといった声が聞こえました。

他に、釜揚げシラス丼の盛り付けも行い、事務局が用意した味噌汁と一緒に試食会を行いました。料理を楽しみながら、事務局から瀬戸内海の魚のことや、漁業について説明があり、色落ちしたノリの写真には、その違いに驚きの声が上がりました。その後、学生らから、殻つきカキの美味しい食べ方や、魚の選び方などの質問が沢山寄せられ、部員らが丁寧に答えていました。

摂播漁青連の活動はさらに拡がっていきます

出来上がった釜揚げシラス丼

第1回 乾のり入札会を開催

JF兵庫漁連のり海藻事業本部

JF兵庫漁連が開催する今漁期の乾のり入札会（共販）が始まりました。JF兵庫漁連のり流通センター（加古郡播磨町）において12月12日（土）に臨時共販、18日（金）には第1回共販を開催し、両日とも全国から買い付けに来られた商社やその関係者らで、共販会場は活気に包まれました。

第1回共販には、参加42商社の約110人が、見本のノリを手に、次々に品定めをしていく姿が見受けられました。今漁期は、高水温の影響でノリ網の張込み作業完了に約1～2週間の遅れが発生したことや、摘採時の強風などの影響があったため、共販枚数は前年に比べ約2、600万枚減の2、318万枚となりました。一方、栄養塩は平年より高めに推移しており、ノリの成長も概ね順調に進んでいることから今後の生産に期待が持てます。共販の開始にあたり、JF兵庫漁連 突々 淳参事は「生産者は活気があり、生産意欲も高く、次回（第2回）には各浜のノリが出揃う予定。今後の兵庫に期待したいをしてもらいたい」と挨拶。また、兵庫海苔入札指定商組合 松谷 晃理事長（松谷海苔㈱社長）は「全国的にノリ生産が出遅れているなか、兵庫には潤沢で安定した生産を期待したい」と挨拶されました。

今漁期の入札会から、共販会場におけるWi―Fi環境を整備し、ノリ商社の皆さんへ快適な環境を提供するとともに、臨時を含み全15回の共販開催を予定しています。（最終共販日は5月10日（火））

なお、毎年宮内庁へ献上しているノリの審査会が16日（水）、水産会館で行われました。色・艶・味などの項目を10点満点で評価し、審査の結果、JF林崎のノリが選ばれ、21日（月）にJF兵庫漁連 山田 隆義会長が宮内庁に持参献上しました。

（第1回乾のり入札会：結果）

共販枚数	2,318万枚
共販金額	3億2,291万円
平均単価	13円90銭
最高値	55円00銭

早朝から多くの方が詰めかけました

兵庫のりに期待を寄せる松谷理事長

JA農産物直売所にJF明石浦が出店
～常設の鮮魚コーナーがスタート～

(一財)兵庫県水産振興基金

JA兵庫南は6次産業拠点施設「にじいろふぁ～みん」（加古郡稲美町）を開設し、11月19日（木）にオープンセレモニーが行われました。この施設にはJF明石浦（戎本 裕明組合長）が常設鮮魚コーナーを設けており、オープン初日には多くの来店者で賑わいました。

オープン当日はセレモニー終了後に来場者が押し寄せ、入店規制がかかるほどの盛況ぶり。売り場面積が約1、000平方メートルという近畿最大規模のフロアには地元産の新鮮な野菜、肉、農産物加工品などが並ぶ一角に、JF明石浦の鮮魚コーナーがあります。明石浦で水揚げされたタイ・ヒラメ・マダコなどのほか、ノリやチリメンなど充実した品揃えで、お客の要望に合わせて三枚卸しなどの調理も可能です。同コーナーは、JAより依頼を受けた同JFが出店し、仲卸会社「魚利大東商店」（明石市）と共同で運営しています。戎本組合長は「地域の皆さんに旬の明石の魚を届けたい。これを機に、地元の魚の良さを知って頂ければ」と期待を寄せられています。

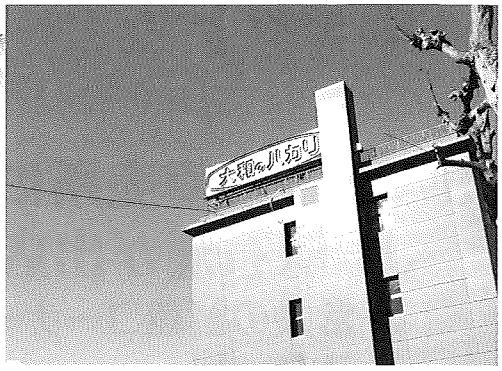
近くに来られた際には、是非寄ってみて下さい！

「にじいろふぁ～みん」

住所：加古郡稲美町六分一 1179-224

約1万㎡の敷地に平屋の農産物直売所（売場面積966㎡）。約500人の生産者が出荷し、地元の畜産農家や漁協から仕入れる精肉・鮮魚コーナーや豆腐工房、地酒・特産品コーナーのほか、ドライフーズ工房や料理教室などを開くキッチンスタジオが入る研修棟（床面積726㎡）を備える。直売所南側の隣接地約1万2千㎡には、農業体験ができる貸農園や研修農地を来年4月に開設予定。

大輪田塾だより



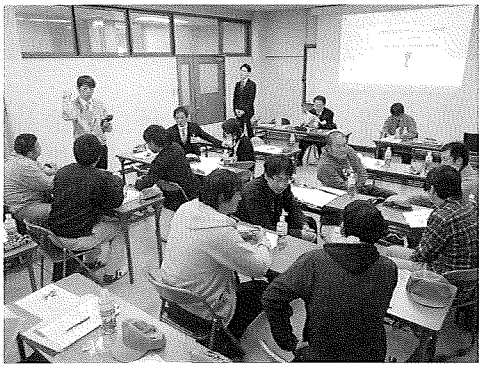
大和製衡株式会社（明石市）で研修

大輪田塾12月講座は、8日（火）に現地研修を行いました。

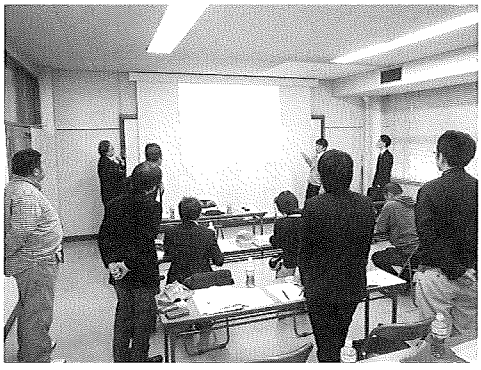
水産業界をはじめ、自動車業界など様々な分野で使用されているハカリを製造する大和製衡㈱（明石市）で「水産業におけるハカリについて」を開講し、在塾生・修了生のほか関係者16名が参加しました。

講義では、ハカリに関する法規や、ハカリの仕組みなどを学んだほか、実際に水産加工場をはじめとする現場で使用されている商品の紹介、工場での製造現場を見ることも出来ました。また、同社が長崎大学などと共同開発した、魚の脂の乗り具合を測定する機器「フィッシュアナライザー」について意見交換がありました。

塾生からは、普段、何気なく使用しているハカリに関して見方が変わったといった感想のほか、フィッシュアナライザーの感想や、新たな商品開発への提案など多くの意見が寄せられ、有意義な研修となりました。



質疑応答に入る前の意見交換の様子



塾生の関心も高かったです

海難事故をなくそう！

ライフジャケットを着用しよう！

もしもの時に、あなたの命を守るライフジャケット！
拓水では、今年もライフジャケット着用推進をPRしていきます。
是非、着用してください！

固型式ライフジャケット
モデル：ＪＦ兵庫漁連 指導部　樋口 和宏さん

～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか？

ＪＦ兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。
※国土交通省の型式承認試験基準に合格したものではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください

是非、着用を！

モデル：ＪＦ兵庫信漁連 営業部業務課　水橋 寛子さん

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部（078－942－9272）までお問い合わせください

第33回兵庫県ＪＡ大会
ひょうごの農と食、そして地域のために新時代を拓くプロジェクトを決議

ＪＡグループ兵庫

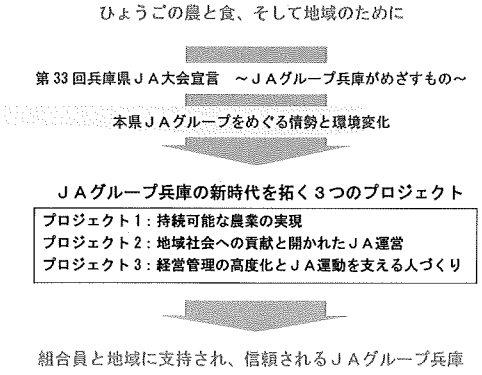
ＪＡグループ兵庫は、第33回兵庫県ＪＡ大会を平成27年11月16日（月）、「ひょうごの農と食、そして地域のために」をメーン・テーマに開催し、「ＪＡグループ兵庫の新時代を拓くプロジェクト」を決議しました。

政府による農協改革、ＴＰＰをはじめとするグローバリズム、新自由主義的な政策に、ＪＡグループがこれからどう対応していくかは、非常に重要な課題です。農業者の所得向上、農業生産の増大、地域社会の活性化、組合員組織のあり方、ＪＡ運営のあり方、総合事業のあり方、連合会のあり方など、非常に困難な課題が山積しています。

そこで、今回の大会では、本県ＪＡグループの新時代を拓くため、今後３年間に共通して取り組むべき重点事項として、①持続可能な農業の実現、②地域社会への貢献と開かれたＪＡ運営、③経営管理の高度化とＪＡ運動を支える人づくり、の３つのプロジェクトを決議しました。

今後、「農」を基軸として、消費者に選ばれる安全で安心な「食」を提供し、「地域」に必要とされる事業を総合的に展開することで、組合員や地域の人たちからＪＡグループに対する確固たる支持、信頼を得ることを目指します。

第33回兵庫県ＪＡ大会決議



http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/

監事業務の基本や監査のポイントを学ぶ
～第18回「監事研修会」を開催～

兵庫県生協連では、11月5日（木）、兵庫県民会館にて兵庫県・兵庫県生協連共催による「第18回監事研修会」を開催。生協運営の健全な発展に果たすべき監事の役割と監査の実務のあり方を学び、今後も健全な生協運営を実施していただくための研修会に、15生協から29名が参加しました。

はじめに、兵庫県企画県民部消費生活課 石田千春 主幹より「監事・監事会の役割と指導検査で見受けられる問題点」と題して、監事の役割や指導検査で見受けられる問題点について。また、ＭＭコンサルティング代表 三宅 充 氏より、「監査業務を遂行するにあたって（改正生協法後の監査業務）」と題して監事業務の基本や監査のポイントなどについてご講演いただきました。分野別グループディスカッションでの交流の場もあり、参加した役職員・監事からは「経営一辺倒の監査にならないよう、協同組合理念を大切にする監査も必要だと思う」「県の指導検査の指摘事項の内容については他生協の事例でも参考になる点がいくつもあると思った」などの感想が寄せられました。

▶監査業務の大切なポイントを話されました

◀分野別グループディスカッションで交流

http://www.coop-hyogo-union.or.jp/

雪化粧の段々田

旬に想う

写真と文
遊方子

縁起食のこと

◆「五穀」とは人が常食する米・麦・豆など穀類の総称である。《小豆》は豆の代表格で赤色の小さな豆だが、目出度さの引立て役として重用される。煮汁で染めた強飯が祝意を表し、女の子が成長して初潮を見た時、赤飯を炊き家庭内で「内祝い」とした。出産時も赤飯で祝い、重箱に詰めて親戚や近所へ配った。胡麻塩を祝儀袋に入れ、難を転ずるという縁起からナンテンの葉を添えた。結婚披露宴での祝膳に、縁を結ぶという意から人参と大根を「紅白千代結び」としたり、吸い物には「結び昆布」を入れる。「亀田大根」や「松葉柚子」も鶴亀や松竹梅に見立てた調理方法で、全てが縁起に繋がる祝意を表明している。

◆赤児が誕生後、百日を経て「お食い初め」を行う。生まれて百日目で食べられる筈もないが、食に恵まれるよう儀式としての真似事をする。佐用町に住む孫の縁起食に付き合ったが、膳に小石を添え丈夫な歯が持てるよう祈る。孫は初めて口にする物はペッと出して仕舞うが、嫌いというより口にした事も無いための用心だろう。小石を口に入れられ泣きもせず、怒った声を出した。祝い膳には、尾頭付きの鯛や赤飯が並んでいたが、当人には全くの絵に書いた餅である。母乳を貰って機嫌良く寝入った可愛い顔を見ながら、お相伴をした。

◆神々に献じる食饌は、祭典によって多少品目が違うけれど、概ね次のものである。米・酒・餅、海川の魚・野鳥・蔬菜と塩・水、鰹節・するめ・熨斗鮑・昆布・干し海鼠（なまこ）・干し柿・搗ち栗。正に『百味の飲食物』を高盛りにする。初収穫や初漁で獲れた品々を、感謝を込めて献上するのである。これらは神饌と称し、神からのお下がりとして煮炊きし「直会（なおらえ）」として有り難く頂戴する。此れらは目出度い食材として扱って、正月の「おせち料理」に代表される縁起食へ繋がっている。それぞれ由来や縁起があり、疎かに出来ぬもの許りである。

◆蒸し米と水と微生物の力を借りて発酵させれば《酒》になる。古代の人はこの不思議な発酵作用に驚いて、これは神様の技だと信じていた。何よりも酔うという感覚は超神秘的だ。今日でも酒造りを神事として行っている醸造所もあり、祭事や冠婚葬祭、祝いや浄めの儀礼に欠かせない最重要なのである。《茶》は、当初は薬として日本へ入り、庶民の嗜好品となったが、朝茶を飲めば一日の難を逃れ『朝茶は三里行っても飲め』ともいう。ビタミンCの効果だろう。『茶柱が立つと縁起がいい』というが、茶所・静岡で茶商人の智恵が生んだ名コピーだという説がある。何処かバレンタインのチョコレートに似ている。

灯浮標は目立って なんぼ！

JF兵庫漁連 指導部

ノリ養殖が行われるこの時期、ノリ網への船舶の乗揚げ事故は後を絶ちません。

神戸海上保安部航行安全課によりますと、淡路島を含む県南部の沿岸部では、ノリ養殖が開始した９月から12月までの間に既に９隻の乗揚げ事故が発生しています。これらは、ノリ網を明示するブイを見失い誤って進入するケースが認められることから、我々漁業者サイドも可能な限りの進入防止対策を講じる必要があります。

そこで、この度、同保安部のアドバイスを基に、ＪＦ富島（田中 孝組合長）は、ノリ養殖漁場の灯浮標に看板（ＪＦ兵庫漁連指導部製作）を設置し、注意喚起を行う取組みを実施したことを受け、先日、同保安部徳永部長が現地確認を行いました。

徳永部長からは、「海上では黄色よりもオレンジ色（ライフジャケットの色）の方が目立つ」、「近隣漁協でも導入されている、俵型のフロート（ＫＰフロート、オレンジ色）二段重ねがよく目立つ」とのコメントを頂きましたので、今後、各ＪＦにおいても同様の安全対策を取り組まれますようお願いいたします。

事故の発生件数を減らすのはもちろんのこと、被害の度合いを軽減させることも「安全対策」となります。小さな一歩かも知れませんが、この一歩で事故を防ぐことができるかもしれません。

なお、オレンジ色の塗料やフロートのご用命は**ＪＦ兵庫漁連資材部（078－942－9272）**まで

オレンジ色で視認性UP！

フロートを重ねると効果的！

発行：一般財団法人 兵庫県水産振興基金
〒673-0883 明石市中崎1丁目2番3号 兵庫県水産会館2F
TEL 078-919-1331 FAX 078-919-1336